



ISAP2021 テーマ別会合8

1.5°Cライフスタイル


ー 市民・ビジネス・行政の協働による脱炭素社会の共創

脱炭素社会に向けた消費者／市民セクターの 取り組み紹介

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACCS) 環境委員長

一般社団法人 環境政策対話研究所 理事

村上 千里



(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

(NIPPON ASSOCIATION of CONSUMER SPECIALISTS)



- 消費生活アドバイザー:消費者と企業の橋渡し役
- 消費生活コンサルタント、相談員:行政の消費者相談窓口の相談員
- 全国7支部で約2400人の会員

消費者相談や消費者啓発・教育の担い手として活動

消費者教育:

- ・消費者トラブルの回避
- ・環境・社会に配慮した暮らし・消費＝グリーンコンシューマー


- 「商品の一生を知ろう」をキーワードに勉強会やワークショップ、行政・企業等との意見交換会等 を実施

- エシカル消費
- 食品ロス

1. ご存じですか？日本の食品ロスの量
(平成29年度農林水産省調査)

日本全体	612万トン
事業者から	328万トン

家庭からの食品ロス量は、前年度から7万トン減
それでも、食品ロスの約半分は、家庭から！



NACS



エシカル消費
～私たちにできること～

地球環境や作る人のことを考えて
商品を選び、消費することです。
私たちの小さな一歩が
世界を良くする力になるのです。



連続講座「カーボンニュートラルシリーズ」の開催

第2回 1.5℃ライフスタイル／

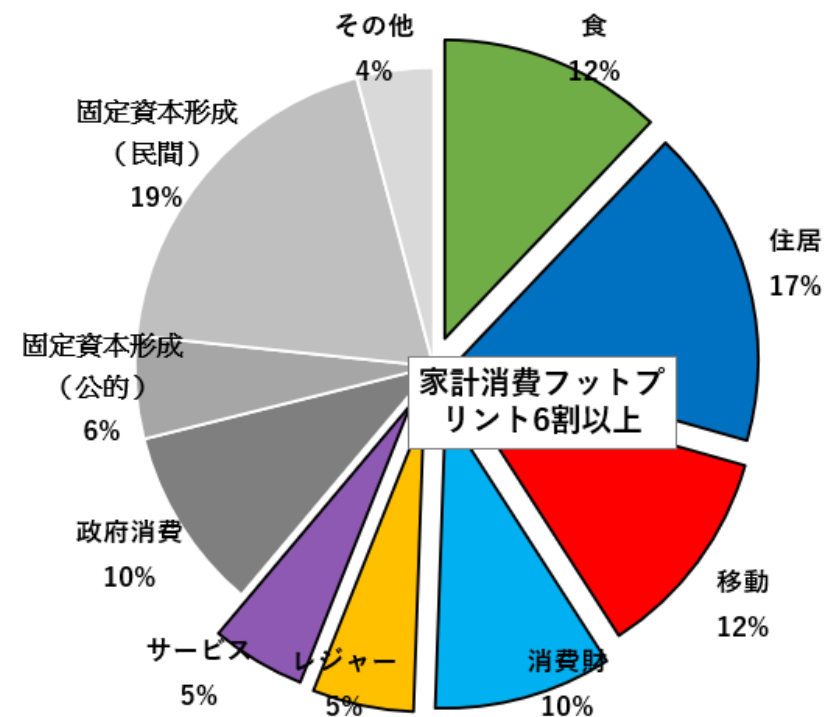
第3回 住まい／ 第4回 食／ 第5回 移動…

ロックイン効果への対策が必要

- 消費者的選択肢は、製品の入手可能性、周囲のインフラ、コミュニティの状況に制約を受けている（=ロックインされている）*1




- *消費者ができることを知り、広げる
- *企業・行政に求めることを考え、提案につなげる



欧州で開催されている「気候市民会議」

 マクロン大統領が設置(2019年10月～2020年6月)

 国会(下院6委員会)の要請で開催(2020年1月～5月)

日本でも始まっているチャレンジ

気候市民会議さっぽろ2020(2020年11月～12月)

気候若者会議(2021年5月～8月)



脱炭素かわさき市民会議 (2021年5月~10月)

無作為抽出による参加市民が、脱炭素に向けた提案を作成

川崎市民 無作為抽出
3201人

参加希望者数
92人

男女・年齢・地域バランスを
考慮し75名に調整
(ユース世代は追加募集)

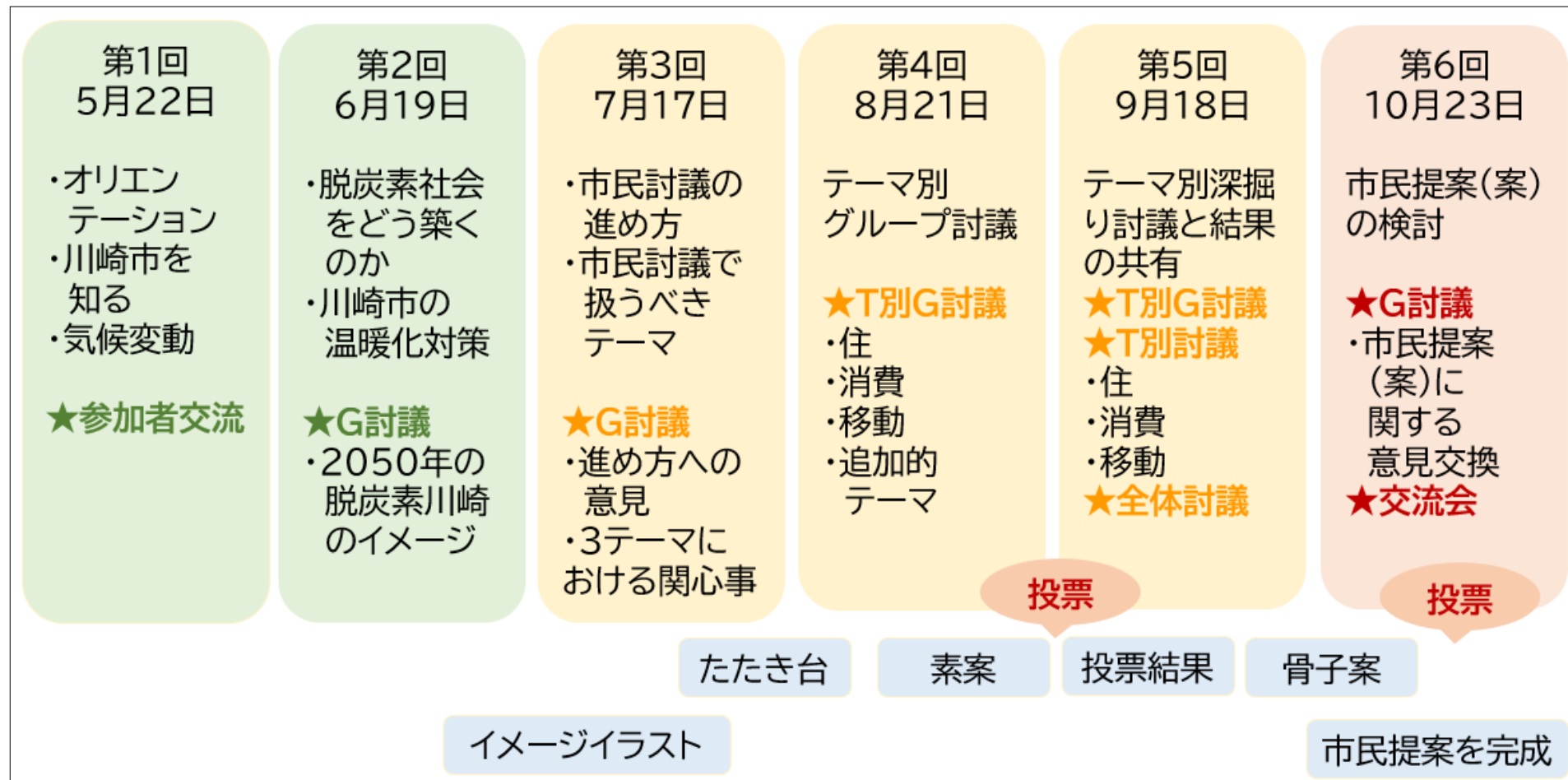


主催：脱炭素かわさき市民会議実行委員会

共催：一般社団法人環境政策対話研究所、川崎市地球温暖化防止活動推進センター

市民提案作成プロセス:

専門家による情報提供、参加市民による議論、
個人の意思表示のための投票、投票結果をふまえた更なる議論



脱炭素かわさきを実現するための取組と提案は77項目

<http://inst-dep.com/info/4247044>

移動 (27)

1. 公共交通機関が便利で自家用車に依存せずに生活できるまち (10)
2. 徒歩・自転車で暮らせるまち (7)
3. 電気自動車が普及したまち (8)
4. 横断的な取組 (2)

住まい (19)

1. 住まいの省エネ・再エネ導入が進んだまち (16)
2. まちづくりによって暮らしの省エネを促進するまち (3)

消費 (22)

1. 大量生産・大量消費に根ざした社会の見直し (8)
2. 資源循環と廃棄物排出ゼロへの挑戦 (7)
3. 持続可能で健康的な食のライフスタイルの推進 (6)
4. 消費行動の変容を促す横断的な取組 (1)

脱炭素全般に関わる取組 (9)

